

協働事業の実施に向けて

～平成24年度協働事業提案に基づく提言～

平成24年11月

柏市協働事業提案選考委員会

「平成24年度協働事業提案に基づく提言」について

本書は、平成24年度の協働事業提案制度の結果及び既存事業の見直しの会議に基づき、来年度実施すべき協働事業について、選考委員会から柏市へ提言するものである。

* * * * *

今年度の提案制度は、次のようなスケジュールで運用された。

4～5月	提案事業の募集
7月5日	選考会 (提案のあった4件のうち、3事業が選考通過)
8～9月	調整協議 (選考通過した3事業について、事業のブラッシュアップ、または協働の仕組み構築のための協議を実施。提案者、担当課、協働コーディネーター、協働推進課(事務局)が協議に参加)
10月7日	既存事業の見直し会議 (平成22年度選考委員会からの提言により制度化。採択～事業実施から5年経過し、現在も継続されている事業について再評価し、今後の事業に活かしていくために実施。実施団体、事業担当課、協働コーディネーター(オブザーバーとして参加)、選考委員会、事務局(協働推進課)が参加)
10月11日	調整協議報告会 (調整協議の結果を選考委員会に報告)

今年度は、3件の事業が選考を通過した。

うち2件は、約2か月間の調整協議を経て、協働事業として成果を十分期待できるものとなったため、来年度事業としての実施を提言する。

またもう1件は、社会的課題の根本解決を図るため、協働での仕組みづくりに継続して取り組むことを期待し、併せて本書に記載する。

また、既存事業の見直しにおいては、今後の事業実施に対する建設的な意見が出された。

来年度以降の事業に反映されるよう、検討されたい。

目 次

1 選考会通過案について 1 頁
2 既存事業の見直しについて 9 頁
3 選考会・報告会及び既存事業の見直しを終えて (小松孝之委員長) 11 頁

■協働事業提案選考委員名簿（◎委員長，○副委員長）

◎ 小松孝之	株式会社ちばぎん総合研究所 受託調査部長
○ 安藤雄太	法政大学現代福祉学部兼任講師
宮坂いち子	(特活)ホスピスケアを広める会 理事長
佐藤和裕	JOBAN アートラインプロジェクト柏実行委員会 前事務局長
福井信行	市民公募委員
金指奈緒子	市民公募委員
常盤勝則	柏市 企画部企画調整課 主査
高橋直資	柏市 地域づくり推進部協働推進課 課長

■協働コーディネーター名簿

松清智洋	柏市民活動センター マネージャー
松永敏明	元協働事業提案制度・市民公益活動補助金選考委員（市民公募委員）

1 選考会通過案への提言

4件の提案のうち、選考会を通過した3件の提案について、提案者と関係部署、事務局、協働コーディネーターの4者間で調整協議が実施された。

去る10月11日に、これまでの調整協議に関する報告を受け、その結果を踏まえて当該3件の協働事業の実施を市に提言することとした。

	提案事業名	カシニワ制度を活用した地域住民による「オープンガーデンの会」の確立
	提案団体名	balloon
	事業関係課	都市部 公園緑政課
	提案事業名	柏 ALWAYS「私とまちの物語」プロジェクトチーム
	提案団体名	柏 ALWAYS「私とまちの物語」プロジェクトチーム
	事業関係課	生涯学習部 文化課
	提案事業名	住み慣れた地域でのその人らしい暮らしをサポートする見守り事業
	提案団体名	(特活)VAIC コミュニティケア研究所柏センター
	事業関係課	保健福祉部 高齢者支援課

選考及び調整協議の結果概要

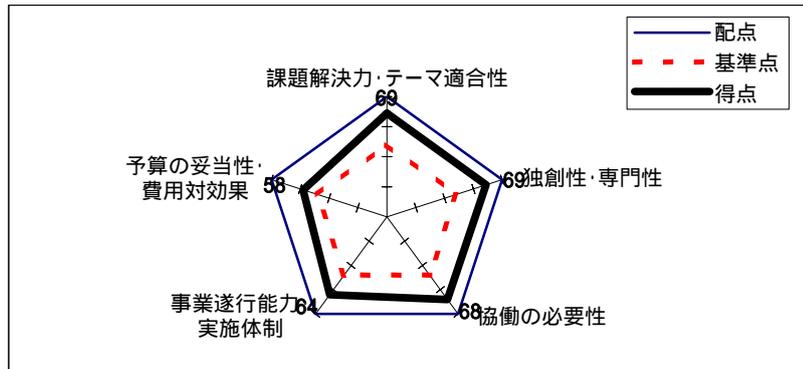
①カシニワ制度を活用した地域住民による「オープンガーデンの会」の確立

1 市や社会の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢社会を迎える柏市で、住民同士が支え合いながら、お互いのできないことを補完し合うコミュニティを強化していく必要がある。 ○本事業では、今後重要な役割を果たす地域交流の場として「庭」に着目し、「カシニワ制度」を活用した交流拠点の創出、さらにはそれをマネジメントする住民組織の設立を目指す。 ○現在、「カシニワ制度」は認知度が低く、登録件数も少ないままであるが、地域を支える交流の場としての役割を打ち出すことで、より多くの住民に関心を抱いてもらうことを狙いとする。 ○また、コミュニティのための場とすることで、住民同士が主体的に協力し合い、個人の庭であっても助け合いながら手入れをしたり、公共の緑の管理も積極的に行ったりする環境を作り、地域の景観の維持・向上にも貢献するものと考えている。
--------------	---

2 事業の概要	<p>○1年目は「カシニワ制度」の中のオープンガーデンに着目し、関心のある住民がオープンガーデンを体験しながら、その魅力や楽しさ、地域コミュニティへの貢献などを理解できるプログラムを年間通して実施する。</p> <p>○さらには、それが住民主体で持続されるように、「オープンガーデンの会」を設立し、地域住民が協力し合いながら、オープンガーデンの普及・管理を行っていく体制を目指し、コーディネートしていく。</p>																																																						
3 なぜ協働が必要か	<p>○プログラムの展開には、モデル地区に入り込み、住民と目線をそろえて議論、イベントの実施を進めていく必要があり、そういった行政では対応しきれない部分を、ワークショップなど住民とのまちづくり活動の経験がある当団体が担う。</p> <p>○また、プログラムの過程での議論から、「カシニワ制度」が持つ課題、修正すべき点を見つけ、より住民にとって意味のある、使いやすい制度とするための提言を示すことにも、当団体の役割があると考えている。公園緑政課と共に取り組めることは、「カシニワ制度」の発展において非常に意味がある。</p> <p>○一方で、自治会との連携や大々的な広報は、行政がより効果的に行うことができ、本事業の実施には、当団体と公園緑政課の協働が不可欠であると考えている。</p>																																																						
4 事業経費 (調整協議を踏まえた額)	<p>【概算事業経費 1,681,386円】</p> <table border="1" data-bbox="478 1077 1401 1915"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>見積額 (単位：円)</th> <th>積算根拠 (数量、単価など)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>1,057,000</td> <td>時間単価 1,000円×7時間 / 1日</td> </tr> <tr> <td>業務計画書作成</td> <td>14,000</td> <td>2.0人日</td> </tr> <tr> <td>対象地区での実施</td> <td>938,000</td> <td>2地区</td> </tr> <tr> <td>企画・計画</td> <td>(70,000)</td> <td>10.0人日</td> </tr> <tr> <td>広報資料作成</td> <td>(126,000)</td> <td>18.0人日</td> </tr> <tr> <td>企画運営</td> <td>(742,000)</td> <td>106.0人日</td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td>84,000</td> <td>12.0人日</td> </tr> <tr> <td>打合せ協議</td> <td>21,000</td> <td>3.0人日</td> </tr> <tr> <td>直接経費</td> <td>544,320</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>(4,320)</td> <td>720円×6.0人回 (柏-柏の葉往復)</td> </tr> <tr> <td>謝礼金</td> <td>(40,000)</td> <td>10,000円×2人×2地区</td> </tr> <tr> <td>広報資料印刷費</td> <td>(240,000)</td> <td>(1,700枚+1,000枚)×3セット</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>(100,000)</td> <td>ワークショップ・イベント備品等</td> </tr> <tr> <td>イベント用備品</td> <td>(100,000)</td> <td>テーブルセット等 50,000円×2地区</td> </tr> <tr> <td>報告書作成費</td> <td>(60,000)</td> <td>報告書1部, 概要版(4頁)1,000部</td> </tr> <tr> <td>消費税</td> <td>80,066</td> <td>小計 1,601,320円に対して</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,681,386</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	見積額 (単位：円)	積算根拠 (数量、単価など)	人件費	1,057,000	時間単価 1,000円×7時間 / 1日	業務計画書作成	14,000	2.0人日	対象地区での実施	938,000	2地区	企画・計画	(70,000)	10.0人日	広報資料作成	(126,000)	18.0人日	企画運営	(742,000)	106.0人日	報告書作成	84,000	12.0人日	打合せ協議	21,000	3.0人日	直接経費	544,320		旅費交通費	(4,320)	720円×6.0人回 (柏-柏の葉往復)	謝礼金	(40,000)	10,000円×2人×2地区	広報資料印刷費	(240,000)	(1,700枚+1,000枚)×3セット	消耗品費	(100,000)	ワークショップ・イベント備品等	イベント用備品	(100,000)	テーブルセット等 50,000円×2地区	報告書作成費	(60,000)	報告書1部, 概要版(4頁)1,000部	消費税	80,066	小計 1,601,320円に対して	計	1,681,386	
区 分	見積額 (単位：円)	積算根拠 (数量、単価など)																																																					
人件費	1,057,000	時間単価 1,000円×7時間 / 1日																																																					
業務計画書作成	14,000	2.0人日																																																					
対象地区での実施	938,000	2地区																																																					
企画・計画	(70,000)	10.0人日																																																					
広報資料作成	(126,000)	18.0人日																																																					
企画運営	(742,000)	106.0人日																																																					
報告書作成	84,000	12.0人日																																																					
打合せ協議	21,000	3.0人日																																																					
直接経費	544,320																																																						
旅費交通費	(4,320)	720円×6.0人回 (柏-柏の葉往復)																																																					
謝礼金	(40,000)	10,000円×2人×2地区																																																					
広報資料印刷費	(240,000)	(1,700枚+1,000枚)×3セット																																																					
消耗品費	(100,000)	ワークショップ・イベント備品等																																																					
イベント用備品	(100,000)	テーブルセット等 50,000円×2地区																																																					
報告書作成費	(60,000)	報告書1部, 概要版(4頁)1,000部																																																					
消費税	80,066	小計 1,601,320円に対して																																																					
計	1,681,386																																																						
5 参考 (選考の結果)	<p>(1) 選考結果 8名の選考委員会において5つの評価項目 (配点10点, 全委員計80</p>																																																						

点, 合計400点) で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	基準点	得点
課題解決力・テーマ適合性	80	48	69
独創性・専門性	80	48	69
協働の必要性	80	48	68
事業遂行能力・実施体制	80	48	64
予算の妥当性・費用対効果	80	48	58
合計	400	240	328



(2) 選考委員会のコメント

- カシニワ制度は、まちづくり全体の手法・モデルではなく、景観創出に係るひとつのツールですが、ガーデニングを通じて、現在希薄になっている地域コミュニティの再構築を図ろうとしている点は、大変興味深く、効果的な取組であると考えます。
- 提案者は、団体構成員の多くが大学・大学院生ですが、地域に入り込み、住民意向を把握しながら一緒に活動する実績もあり、事業の実現性と発展に大変期待を持ちました。
- 提案者のように、実力がある若者の団体が、行政と協働しているということを発信することで柏市の良いアピールになると思います。
- 提案事業を推進するにあたっては、モデル地区におけるキーパーソンを見つけ、信頼関係を構築することがとても重要になります。

(2) 調整協議にむけて

- 今回の提案では、これまでじっくり関係を築いてきた地区とは異なり、1年間である程度の結果を出すことが求められます。担当課・関係課とよく連携し、特に、モデル地区の選定は慎重に行うことが肝要です。
- また、26年度以降の事業の展開や予算の確保（事業の継続性）についても、併せて検討してください。

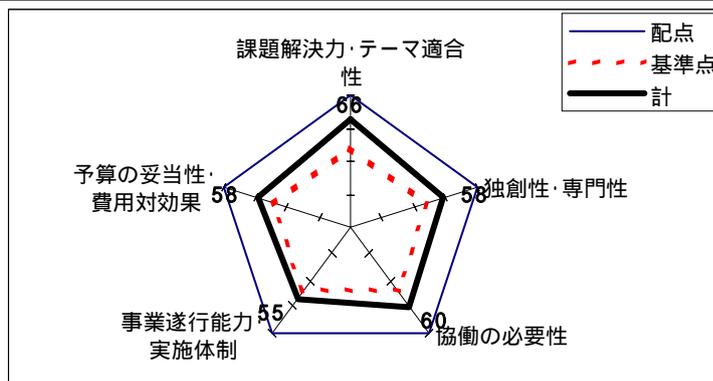
6 参考（調整協議での変更事項）

- モデル地区を2つに絞り、各地区10～12回程度の勉強会・ワークショップ・イベントを繰り返す。
- 1年目は庭付きの戸建て住宅街を対象を絞り、柏市の中でも高齢化が進んでいる柏ビレジ地区と、一方で若い世代が入ってきている手賀の杜地区をモデル地区とし、世代による庭やまちへの意識の差、コミュニティのあり方の違いに着目しながら進めていく。

	<p>○年度末には各地区での取り組みを冊子とし、本事業の魅力を発信し、他地区の住民にも関心を抱いてもらい、本事業を普及させるための1つのツールとする。</p> <p>○また、2年目以降に集合住宅での地域の庭づくりに着手することを視野に入れる。</p>
<p>7 参考（報告会での意見）</p>	<p>○数値目標の達成とともに、当事業を実施する過程で様々な人や団体とのネットワークを構築し、その関係性を継続・発展させることも重視して欲しい。</p> <p>○将来的には、新住民と旧住民の交流など、様々な地域コミュニティの課題解決のツールとなることを期待したい。</p> <p>○成果報告書を作成することなので、積極的に公開・還元してほしい。成功事例を情報発信することで、カシニワ制度自体も全市的に周知・普及していくことが期待される。</p> <p>○大学生・若者中心の団体から、本件のような先進的な協働事業が提案されること自体が、柏市ならではの特性であり、都市イメージの向上に大きく貢献する。このような協働を、市をあげて成功させることが重要である。成果のみならず取組経過を記録し、若者・学生と行政の協働のモデルケースとして、市民と庁内に紹介していくことが望まれる。</p>

②柏ALWAYS「私とまちの物語」プロジェクトチーム

1 市や社会の抱える課題	<p>○柏市には膨大な写真資料があり、市民ボランティアの協力による整理に追われている。</p> <p>○柏市の歴史を市民に知ってもらうためにも、その活用・発信が望まれる。</p>																																													
2 事業の概要	<p>○写真展</p> <ul style="list-style-type: none"> *文化祭（20点程度のキャプション付き写真パネルの展示） *単独写真展（80点以上のキャプション付き写真パネルの展示） <p>○市民向け学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> *単独写真展開催に合わせ期間中にDVDの録画を見せたり、写真の読み取りや背景の説明を行う。 																																													
3 なぜ協働が必要か	<p>○市では、資料の整理で手一杯であり、活用・発信する事業を実施する余裕がない。</p> <p>○市民むけの写真展を実施した実績のある当団体に関わることで、市民に対し、効果的な発信ができる。</p>																																													
4 事業経費（調整協議を踏まえた額）	<p>【概算事業経費 292,100円】</p> <table border="1" data-bbox="475 860 1399 1630"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>見積額 (単位： 円)</th> <th>積算根拠（数量，単価など）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消耗品費</td> <td>128,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>貼りパネル</td> <td>(54,400)</td> <td>2,720円×20枚</td> </tr> <tr> <td>印画紙（光沢紙）</td> <td>(8,000)</td> <td>4,000円×2冊</td> </tr> <tr> <td>印画紙 （フォトプリントロール）</td> <td>(29,400)</td> <td>14,700円×2メートル</td> </tr> <tr> <td>印画紙（マットロール）</td> <td>(6,300)</td> <td>6,300円×1</td> </tr> <tr> <td>事務用消耗品</td> <td>(30,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>使用料</td> <td>10,000</td> <td>長尺プリンター</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>154,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>編集</td> <td>(67,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>印刷</td> <td>(6,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パネル制作</td> <td>(18,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>展示</td> <td>(59,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習会</td> <td>(4,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>292,100</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	見積額 (単位： 円)	積算根拠（数量，単価など）	消耗品費	128,100		貼りパネル	(54,400)	2,720円×20枚	印画紙（光沢紙）	(8,000)	4,000円×2冊	印画紙 （フォトプリントロール）	(29,400)	14,700円×2メートル	印画紙（マットロール）	(6,300)	6,300円×1	事務用消耗品	(30,000)		使用料	10,000	長尺プリンター	人件費	154,000		編集	(67,000)		印刷	(6,000)		パネル制作	(18,000)		展示	(59,000)		学習会	(4,000)		計	292,100	
区 分	見積額 (単位： 円)	積算根拠（数量，単価など）																																												
消耗品費	128,100																																													
貼りパネル	(54,400)	2,720円×20枚																																												
印画紙（光沢紙）	(8,000)	4,000円×2冊																																												
印画紙 （フォトプリントロール）	(29,400)	14,700円×2メートル																																												
印画紙（マットロール）	(6,300)	6,300円×1																																												
事務用消耗品	(30,000)																																													
使用料	10,000	長尺プリンター																																												
人件費	154,000																																													
編集	(67,000)																																													
印刷	(6,000)																																													
パネル制作	(18,000)																																													
展示	(59,000)																																													
学習会	(4,000)																																													
計	292,100																																													
5 参考（選考の結果）	<p>(1) 選考結果</p> <p>8名の選考委員会において5つの評価項目（配点10点，全委員計80点，合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="593 1780 1345 2069"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>基準点</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題解決力・テーマ適合性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>事業遂行能力・実施体制</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>400</td> <td>240</td> <td>297</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配点	基準点	計	課題解決力・テーマ適合性	80	48	66	独創性・専門性	80	48	58	協働の必要性	80	48	60	事業遂行能力・実施体制	80	48	55	予算の妥当性・費用対効果	80	48	58	合計	400	240	297																	
評価項目	配点	基準点	計																																											
課題解決力・テーマ適合性	80	48	66																																											
独創性・専門性	80	48	58																																											
協働の必要性	80	48	60																																											
事業遂行能力・実施体制	80	48	55																																											
予算の妥当性・費用対効果	80	48	58																																											
合計	400	240	297																																											



(2) 選考委員会のコメント

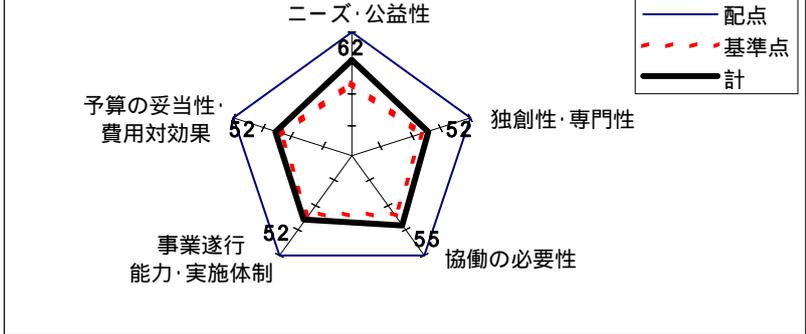
- 柏市はどのような発展を遂げてきたのか，市民に関心を持ってもらう上でも，史料整理は重要な事業であると思います。
- 単なる史料整理の下請けになるのではないかと懸念もありましたが，「市民への還元」「精度の向上」「埋もれている写真の発掘」を，市と協力して行うということが確認できたため，協働事業としての意義を感じました。
- 単発の委託業者ではなく，柏市において地道な活動を続けてきた貴団体が関わることで地域性を尊重した整理と情報発信に期待します。

(2) 調整協議に向けて

- 現在の人員では負担が大きいため，多くの市民を巻き込む工夫・体制を考えてください。直接事業に関わることで，より理解が促進されることと考えます。
- 提案の中で内部向けに検討されている学習会は，市民向けに実施してください。そうすることで，貴団体の活動の情報発信と理解促進及び新しいボランティアの確保につながるものと考えます。
- 提案者は，単に史料整理を行うだけでなく，ボランティアのコーディネート役（後継者の育成）も担うことをしっかり認識してください。
- 貴団体のメンバーや上記ボランティアに対しては，交通費（1000円）程度の謝礼を支払えるよう予算計上してください。貴団体の発展と持続的な活動のために必要なことです。

6 参考（調整協議での変更事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○当初年1回で考えていた写真展を，年2回実施とする。市民への発信の機会を多く持つ。 ○写真展に合わせ，市民向け学習会を開催。新規ボランティアの獲得にも努める。
7 参考（報告会での意見）	<ul style="list-style-type: none"> ○市民への発信の機会を多く持つことは良いこと。さらに興味・関心を持ってもらえるよう，展示方法等に市民公益活動団体ならではの工夫をして欲しい。 ○子どもに対する周知も大切な取り組み。教育委員会との協働である機会を活かし，学校と連携した事業についても検討して欲しい。

③住み慣れた地域でその人らしい暮らしをサポートする見守り事業

<p>1 市や社会の抱える課題</p>	<p>○柏市の平成23年10月現在高齢化率は20.0%であり、今後も急速に高齢化が進み、超高齢社会がやってくるとされている。（「第5期柏市高齢者いきいきプラン21」より）それに伴い、要支援・要介護高齢者や認知症高齢者の増加も予想され、高齢者が地域において自立して暮らし続けることを支援するための環境整備が大きな課題となっている。</p> <p>○今日、地域福祉の主体は地域住民とされている。しかし、町会や地区社協によって、地域福祉推進への取り組みの進捗に大きな違いがある。また、団塊世代の地域でのボランティア活動への意欲は高く、それを地域コミュニティ作りにつなげる仕組み、コーディネートする仕組み作りが求められている。</p>																												
<p>2 事業の概要</p>	<p>○行政が主導し、地縁型組織と目的型（テーマ型）組織のそれぞれの団体を巻き込んだ、新しい地域福祉のプラットフォームづくりを進める。</p> <p>○モデル地区を設定し、現在、地縁組織を中心に行われている見守りシステムにおいて、NPOがどのような役割を果たせるか具体的な取り組みの中で検証していく。</p>																												
<p>3 なぜ協働が必要か</p>	<p>○地域福祉には様々な団体関わっており、これらを1団体、または行政だけで有機的に連携させることは難しい。</p>																												
<p>4 事業経費（調整協議を踏まえた額）</p>	<p>○具体的な取り組みが決定していないこともあり、今年度の予算要求は行わない。</p> <p>○今後の協議の中で、費用が発生するのか、その場合どのような形で負担をするのか、そしてどのように全市的に適用するのかも併せて検討する。</p>																												
<p>5 参考（選考の結果）</p>	<p>(1) 選考結果</p> <p>8名の選考委員会において5つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="547 1417 1361 1720"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>基準点</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ニーズ・公益性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>事業遂行能力・実施体制</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>400</td> <td>240</td> <td>273</td> </tr> </tbody> </table> 	評価項目	配点	基準点	計	ニーズ・公益性	80	48	62	独創性・専門性	80	48	52	協働の必要性	80	48	55	事業遂行能力・実施体制	80	48	52	予算の妥当性・費用対効果	80	48	52	合計	400	240	273
評価項目	配点	基準点	計																										
ニーズ・公益性	80	48	62																										
独創性・専門性	80	48	52																										
協働の必要性	80	48	55																										
事業遂行能力・実施体制	80	48	52																										
予算の妥当性・費用対効果	80	48	52																										
合計	400	240	273																										

	<p>(1)選考委員のコメント</p> <p>○高齢社会が進展し、また独居高齢者の数が増え続ける今日において、柏市のような都市部においては、新しい地域福祉システムの構築が急務となっています。</p> <p>○既に社会福祉協議会を中心に実施されている取り組みですが、十分に機能していない現状を打破したい、今後さらに高まるニーズに対応したいという提案内容に、強い共感を覚えました。</p> <p>○但し、このことは、一団体あるいは行政だけで対応・解決できる問題ではありません。</p> <p>○この事案については、行政と貴団体だけの協働で取り組むものではなく、行政が主導し、社会福祉協議会や自治会等の地縁団体だけでなく、NPOなどのテーマ型の団体も巻き込んだ、新しい地域福祉のプラットフォームづくりを進めるべきだと考えます。</p> <p>(2)調整協議に向けて</p> <p>○貴団体と市との協働事業で採択となりますが、上記コメントのとおり貴団体と行政だけで解決できる問題ではないので、貴団体と同様な課題認識を有するNPOや社協・自治会等の地縁型組織を巻き込み、プラットフォームの基礎となるネットワークと協力体制の構築を目指してください。</p> <p>○その中で、提案者のようなNPOが果たすべき役割を見出し、モデルケースとなるような取組として実施してください。</p>
6 参考（調整協議での変更事項）	<p>○モデル地区を1箇所設定し、地縁組織とNPOの連携による地域福祉の具体的な取り組みを検討する。</p> <p>○地域福祉に対し、それぞれが異なるイメージを持っているため、ひとつひとつ確認しながら目的と方法の共有を図る。</p>
7 参考（報告会での意見）	<p>○一言でNPOと言っても様々な団体があるが、地縁団体とは異なる専門性や機動性を有している。これらと協働することで、地域福祉を向上させるという本来の目的を見失わないで欲しい。</p> <p>○関わる団体が多いだけに、行政として慎重になることも理解できるが、あまり協議に時間をかけすぎないように注意して欲しい。</p> <p>○モデル地区において、行政が中心となって関係者を集め、地域課題を共有し、各主体ができることを確認しあい、まずできることを実践しながら、プラットフォーム構築を進めてみてはどうか。</p>

2 既存事業の見直しを踏まえての提言

去る10月7日に、平成18年度に採択された1事業について、実施団体と担当部署、選考委員会、事務局の4者間で見直しが行われた。

その内容を踏まえて当該協働事業の次年度以降の実施について、市に提言することとした。

対象事業名	おいじたくあんしん相談室事業
実施団体名	(特活)おいじたくあんしんねっと
事業担当課	保健福祉部 高齢者支援課

既存事業の見直しのすすめかた

- 事業担当課より、協働事業報告書により事業実施状況報告（10分）
- 選考委員より、実施団体及び担当課へ質疑応答（15分）
- 採点（5分）
- 選考委員による意見交換（30分）

既存事業の見直しの概要

【事業概要】 高齢期を迎えた市民が抱えている老後の生活についての様々な不安（ライフプラン、相続対策等）に関する相談窓口を月2回開設。弁護士、税理士、司法書士、ファイナンシャル・プランナー等の専門家が、輪番制（2～3名）で対応しており、高齢者の不安・心配事に対し、ワンストップで相談に応じることができる。 また、定期的に報告会を行っており、実施団体と事業担当課で情報共有している。 なお、相談会場は、秘書広報課が所管する市民相談室を使用している。	
1 事業のすすめかたについて	○柏市の高齢者人口約80,000人に対し、年間の相談可能件数は3件×2回×12ヶ月で72件と少ない。市民ニーズに対して、質の面では十分に答えていると推察するが、ボリューム面ではまだ十分に答えきれていないと思われる。人員体制を含め、可能であれば、沼南庁舎を活用するなど、回数の増加も検討して欲しい。 ○月1回、広報かしわに掲載しているとはいえ、市民の認知度はまだまだ低いと思われる。より効果的な広報に努めて欲しい。
2 協働のありかたについて	○報告会等を定期的で開催し、実施団体と事業担当課が、情報や市民ニーズを共有するなど、きちんとした協働体制ができている。 ○相談室を利用し、後日、会を通じて専門家を紹介してもらえることは、市民にとっては利便性が高い。しかし、補助事業＝団体の事業として実施しているがゆえの柔軟な対応とも言える。委託へ移行する際には、倫理性及び透明性の確保についてよく検討して欲しい。

3 次年度以降の事業実施について

○ワンストップサービスを高めるためには、他の相談事業との有機的な連携を強化して欲しい。

○また、NPOや町会でも高齢者向けサロン等を実施し、悩み事を聞くという事業を行っている。より大きなニーズに応えるためにも、市役所内だけでなく、民間事業者やNPO、町会との連携も必要。

○将来的には、高齢者相談サービスのプラットフォームの構築を目指して欲しい。

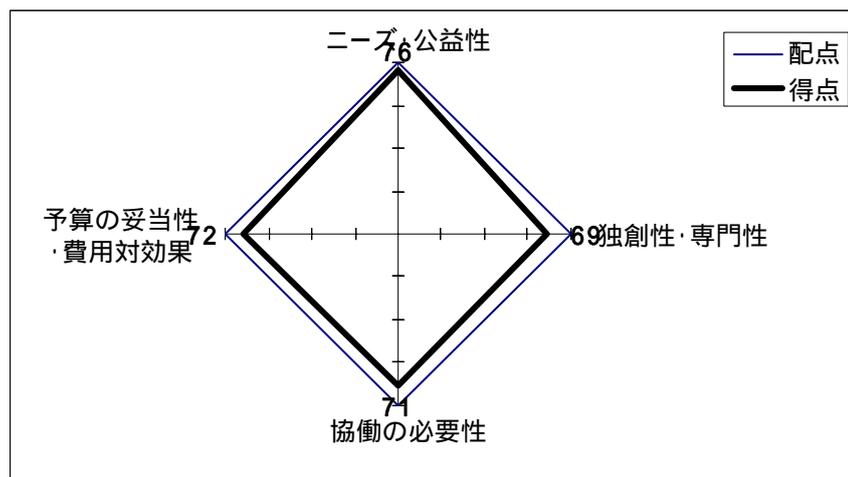
4 参考（再評価の結果）

(1) 評価結果

8名の選考委員会において4つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計320点）で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	得点
ニーズ・公益性	80	76
独創性・専門性	80	69
協働の必要性	80	71
予算の妥当性・費用対効果	80	72
合計	320	288

提案事業への評価	評価内容	評価	人数
提案事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	5名
	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。	B	3名
	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	—
	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	—



3 選考会・報告会及び既存事業の見直しを終えて

(協働事業提案選考委員会委員長 小松 孝之)

選考委員会においては、個々の提案の審議について、真摯な姿勢で活発な議論を行い、公明正大な審査と評価に努めてきた。また、既存事業の見直しについても、今後の事業のあり方について建設的な意見も出しあった。

かかる議論の中で注目した点について列挙したい。

- (1) 今回提案のあった4件の内容は、カシニワ制度を活用した地域コミュニティの活性化と、柏市が保有する史料の有効な発信、市の男女共同参画及び子育て支援サイトの利用者拡大、そして地域で高齢者を見守る仕組みの構築となっており、いずれの提案も、多様かつ切実な地域課題に基づくものであった。

不採択となった1件の提案は、協働事業提案制度で採択すべき内容ではなく、すでに協働している担当課との協議を深める中で実施すべきものと判断した。

- (2) 採択した案件のうち、1件は既に社会福祉協議会や町会・自治会等地縁団体を中心に実施されている取り組みである。しかし、高齢社会が進展し、また独居高齢者の数が増え続ける今日、柏市のような都市部においては、新しい地域福祉システムの構築が急務となっている。NPOのような新しい公共の担い手も、地域の重要な資源のひとつと捉え、連携する道を探る必要がある。

選考会で意見聴取をしたところ、担当課も同様の問題意識を持っていることを確認した。

そのため、選考委員会では、この案件については、提案団体と担当課の1対1の協働事業ではなく、地域福祉に関わる様々な団体・機関を巻き込んだ地域福祉のプラットフォーム作りに取り組むべきであると考えた。

なお、選考委員会の言うプラットフォームとは、現在、それぞれが行っている取り組みを有機的に繋ぎ、地域福祉の向上に取り組むことを意図している。

このような地縁団体とNPOの連携事例は、全国的にもほとんど見られず、難しい取り組みである。しかし、協議に時間をかけすぎず、具体のアクションの中からモデル性を見出し、全市的に広めていって欲しい。

従来の協働事業提案制度の枠組みからは外れるが、行政とNPOが、異なる立場から意見を出し合い、1つのものを作り上げるという協働の形態に期待したい。

- (3) 採択した他の2つの案件についても、選考委員会で時間をかけて十分に議論を行い、事業の成果をより高めるため、提案内容の深掘りや改善等の要望・条件付けを行った。

今般、調整協議報告会において、選考会の後の調整・協議の結果を聞き、いずれの提案も選考委員会からの要望等に十分に対応し、内容の質が高まっているとともに、提案団体と担当課との信頼関係も構築されつつあり、「協働」の効果と成果を期待できるレベルに仕上がっていると感じた。

したがって、この2案件については、是非とも、貴市において「協働事業」として実現させることを、選考委員会一同、希望するものである。

(4) なお、今回の採択事業のうち、2件は地縁団体との連携が不可欠となっている。また、既存事業の見直しにおいても、将来的な事業展開として、地縁団体を含めた関係団体との連携について意見が出されている。

今後、地域課題の解決において、NPOの役割が大きくなることも予想されるが、地縁団体とNPOは組織の成り立ちが異なるため、同様の目的を有していても関係構築が難しい。

NPOが地縁団体に対しアプローチする際には、地域事情をよくわかっている職員が間に入るなど、行政の調整力も要求されることを強く認識していただきたい。